園だより３月

わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。
コリントの信徒への手紙Ⅲ　３章６節

　小春日和の続いた２月の日々。その温かな日差しは年度末を惜しみ、大切に過ごす幼稚園の日々への大きな恵みのひとつでした。
　１月の終わりから少しずつ、園生活での引き継ぎが年中長さんの間で行われ始めていました。２月はその営みが繰り返され、子どもたちは年度の終わりが近づいていることを肌で感じつつ、この時期だからこその想いを深めていました。そして、その気持ちを添えたお互いに渡したいプレゼント作りに繋がっていきました。

　年間を通して子どもたちは製作活動を楽しみました。共に楽しむ私たち保育者が　大切に思うことは、製作物に子どもたちのそのときの想いが込められること。想いに心を動かし製作をする、その過程にこそ製作活動を通しての育みが有る、ということです。出来あがった製作物の出来栄えが、とかでは無く。想いを大切に子どもたちと楽しんできた製作活動。２月も、その想いに溢れた製作の日々がありました。
　年中さんと年長さんで一緒にお当番のお仕事をひとつひとつ丁寧に行うことで、　少しずつお仕事が担えた年中さん。そんな姿を「いいね」と認めた年長さん。この時期ならではの心の交流がなされていく中、「お花の水やり」　「お砂場の洗い屋さん」　「ちゃな（カメ）のお世話」三つのお仕事が年中さんの板について来たころ、年長さんのお部屋で「お当番バッヂ」の製作が始まりました。「お当番が上手に出来るようになったね。年長さんになったらよろしくね！頑張ってね！」と自分たちが去年の年長さんからプレゼントされた「自分の顔のお当番バッヂ」。嬉しかった出来事、今度は自分たちが！と。心を動かし内緒内緒で成されていました。そんな優しい大好きな年長さん、「年長さん大好き」「もうすぐ小学校に行くんだって」「寂しいね」と年中さんの呟き。年長さんに「大好き！ありがとう！の気持ちを伝えたいね」と始まった「大好きのお花」作り。大好きな年長さんの大好きな色をそっと聞いたり、考えたりして羊毛で作るお花の色を決めていました。これもやっぱり内緒内緒。お互いを思う心の動きが園内に溢れていました。そんな子どもたちの心持ち、ふっと湧いて来るものではありません。穏やかに流れる園生活の中で少しずつ想いが折重なり、育まれていくのです。

　子どもたちの心の成長を喜び、残すところ少しの日々も大切に大切に過ごして参りたいと願います。よろしくお願い致します。

園長　駿河　幸子